

### 3 . 日本の対アジア機械機器貿易構造に関する比較分析

長期にわたる景気拡大を続けてきた米国経済はここへきて減速の兆しがみられるようになった。一方、日本では長引く不況からの脱出を図るべく諸処の金融・財政政策がとられている。

こうしたなか、今日の日米両国にとってアジアとの経済関係は、非常に重要な役割を果たすに至っている。なぜなら、アジアとりわけ NIES 4 か国、ASEAN 4 か国に中国を加えた 9 か国（地域）との貿易は日本の輸出入の約 4 割、米国の輸出入の約 2 割をそれぞれ占める規模に達しているからである。

1980 年代後半からの輸出志向型の経済発展を続けてきたアジア諸国は、1997 年の通貨・経済危機に見舞われるまで、世界経済の成長センターと呼ばれ、また国によってばらつきはあるものの、危機後の回復は堅調であるようにみえる。

その背景には、アジア地域がこれまで日米両国や欧州諸国といった先進工業国からの直接投資を積極的に受け入れた結果としての産業の集積が、より重層的なものとなってきたことが指摘できよう。

しかし、日本と米国の対アジア貿易がそれぞれどのような構造にあり、また、その構造が近年どのように変化しているのかといった比較分析は、これまで多くなされていない。

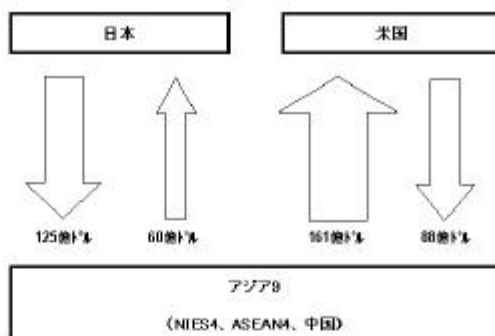
本調査はこのような観点から、日本と米国の対アジア 9 か国（地域）貿易を機械機器について詳細に比較分析した。

本調査で用いた統計は日本の財務省通関統計及び米国商務省センサス局統計である。対象とした品目は、機械機器（HS84 類から 91 類まで）の 機械機器合計、一般機械（HS84）、電気機器（HS85）、輸送機器（HS86-89）、精密機器（HS90-91）およびその内訳（HS 4 桁分類）の 218 品目である。対象期間は 1995 年から 2000 年までの 6 年間である。

収録内容は次ページのとおり。

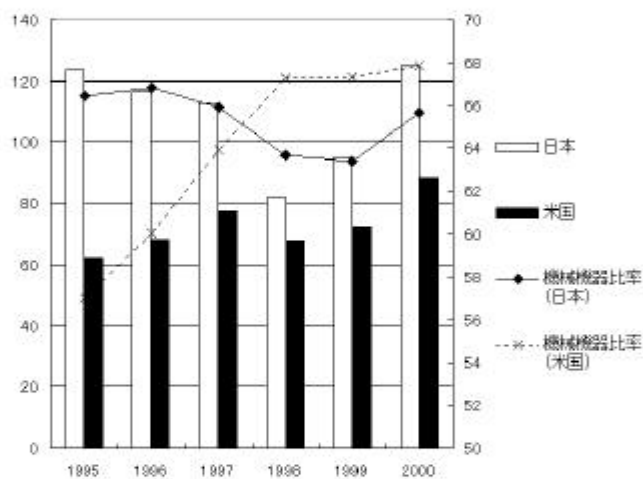
<要約> 日米の対アジア機械機器貿易の構造

1 日米の対アジア機械機器貿易は、日本の大幅輸出・米国の大幅輸入の構造である。



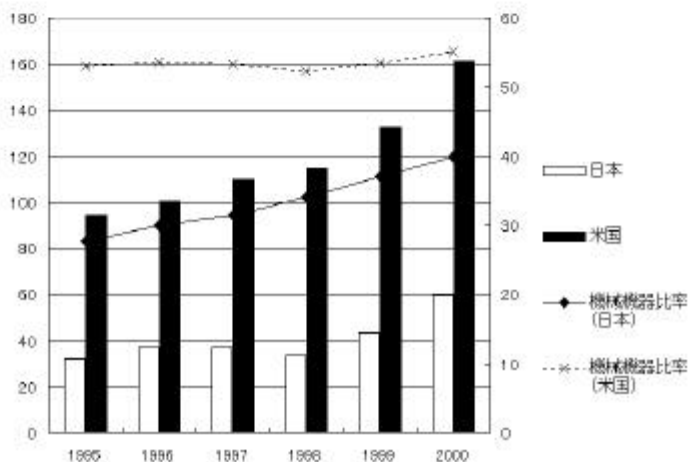
(注) 数値は2000年。

2 対アジア輸出における機械機器比率は1998年以降、米国が日本を上回る。



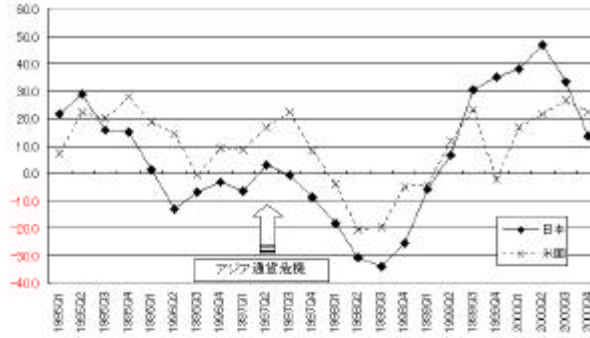
(注) 輸出事(10億ドル、左目盛)、機械機器比率(%、右目盛)

3 日本の対アジア機械機器の輸入比率は、上昇傾向にあるものの米国を下回る。



(注) 輸入事(10億ドル、左目盛)、機械機器比率(%、右目盛)

4 アジア通貨危機により両国の対アジア機械部品輸出額は減少したが1999年には回復した。



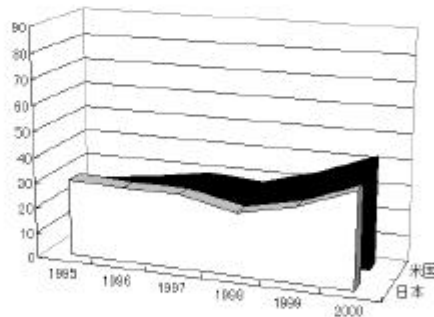
《注》前年同季比 (%)

5 アジア通貨危機に際しても、米国のアジアからの機械部品輸入は減少には至らなかった。



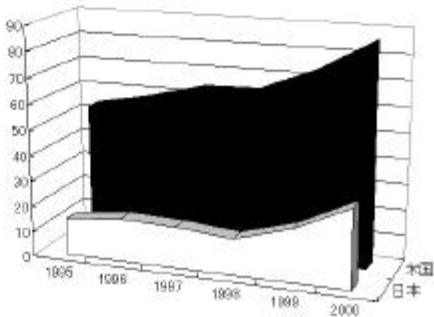
《注》前年同季比 (%)

6 アジアへのICとコンピュータの輸出は1996年以降、米国が日本を上回る。



《注》IC・コンピュータはF8471、8473、8540、8541、8542の合計

7 米国のアジアからのICとコンピュータ輸入は日本の約9割にのぼる。



《注》IC・コンピュータはF8471、8473、8540、8541、8542の合計  
《出所》日本財務省、米商務省